

2020
Apr.

Vol. 47

一般社団法人栃木県診療放射線技師会
情報誌

あすたーと

芝ざくら公園 (市貝町)



市貝町にある芝ざくら公園は平成18年4月に開設され、総面積8万㎡の園内には約20万株の芝ざくらが植栽されています。その広さは1万8千㎡で、毎年4月中旬から5月上旬には4色（赤・ピンク・紫・白）の芝ざくらが一面を飾り、芝ざくらまつりが開催されます。しかし、今年は新型コロナウイルス感染の拡大防止を考慮し、公園の閉鎖を余儀なくされました。

CONTENTS

■ 巻頭言	環境の変化	2
■ 会告	本会主催・共催の講習会等の開催延期について	3
	[中止または延期とした本会主催イベント一覧]	
■ 報告	第13回 業務拡大に伴う統一講習会開催報告	4
■ 報告	第15回 学術研究発表会 (Web開催) 報告開催	6
	[学術奨励賞を受賞して]	
■ 報告	令和元年度 第2回 第2地区卒後教育講座開催報告	7
■ 報告	令和元年度 第2回 第3地区卒後教育講座開催報告	9
■ 報告	令和元年度 第2回 第4地区卒後教育講座開催報告	10
■ 報告	令和元年度 第2回 第5地区卒後教育講座開催報告	11
■ 事務局報告		12
■ INFORMATION		13

環境の変化



一般社団法人 栃木県診療放射線技師会
会長 小黒 清

2019年12月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルスが、世界中で猛威を振っています。週末の不要不急の外出自粛をするようにとの指示が各県で発表されたのに続き、日本政府は緊急事態宣言を発するなど新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がいつ終息するか先が見えない状況です。つい数か月前と比べて身の回りの環境がずいぶん変化しました。会員みなさんの施設においても、新型コロナウイルス拡大防止のために、様々な感染防止対策を行ったり、不要不急の外出を控えたりと今までとは違った生活環境の中で毎日を過ごしていることと思います。

栃木県診療放射線技師会では、1年の中で一番大きなイベントである第15回学術研究発表会を、国内において複数の感染者が確認されている状況を鑑み、会員の安全を第一に考え苦渋の選択でありましたが開催を中止しました。

また、これまで発表者が研究発表のために何日もの準備をしてこられたことを考え、承諾が得られた発表者に限り第15回学術研究発表会を本会ホームページでWeb開催しました。さらに新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月、3月に予定していた各地区卒後教育講座は中止、第1回栃木Ai研究会の開催も延期しました。日本診療放射線技師会の事業も4月、5月は中止と連絡がありました。本会の理事会、第1回卒後教育講座、第96回定時社員総会なども延期せざるを得ない状況ですので、今年度の本会事業計画の見直しも必要と考えます。

一方、我々診療放射線技師を取り巻く環境も変化してきています。

2019年3月11日に医療法施行規則の一部を改正する省令が公布され、診療用放射線の安全管理体制整備について2020年4月1日に施行されました。具体的には、エックス線装置などを備える全ての病院・診療所は「医療放射線安全管理責任者」を配置すること、医療放射線の安全利用のための指針を策定すること、放射線診療に従事する者に

対する診療用放射線の安全利用のための研修を実施すること、対象となる医療機器等の被ばく線量の管理と記録を行うこと、診療用放射線に関する情報等の収集と報告を行うことです。

会員みなさんも準備にかなり時間がかかったものと思いますが、これからは施設の中での診療放射線技師の役割が注目されることだと思います。

また、厚生労働省は1月20日の「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進に関する検討会」で、医師の労働時間の短縮のため診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の3職種への業務移管を可能とする22項目を示しました。複数職種への移管が想定される静脈路確保を巡っては、医師の負担軽減への効果を歓迎する声上がる一方、看護師からは慎重意見が相次ぎました。厚労省は研修の在り方や項目の整理を進め、法令改正への準備を進める方針のようです。この先、上記のことが法令改正された場合は、現状では静脈路確保は医師と看護師しかできませんが、RI検査や造影検査の際に診療放射線技師への移管を認めることで、撮像室への入室から静脈路確保、RI核種の注入、撮像、抜針、止血まで、診療放射線技師による一貫した対応が可能になることから、検査効率が向上し我々診療放射線技師の役割がますます重要になってくると思います。

現在、「新型コロナウイルス感染」により自分を取り巻く生活環境が変化し、職場においても「診療用放射線の安全管理体制の整備」により診療放射線技師の職場環境が変化してきているような気がします。

これからも、日々変化していく自分たちを取り巻く環境に柔軟に対応していくことが重要ではないでしょうか。

栃木県診療放射線技師会ホームページ

<http://www.tartnet.com/>

検索

ぜひ一度ご覧ください。

会 員 各 位

一般社団法人栃木県診療放射線技師会
会 長 小 黒 清
【公印省略】

本会主催・共催の講習会等の開催延期について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会の諸事業に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止に向けて慎重に対応を検討した結果、例年5月に開催しております第1回卒後教育講座及びフレッシュャーズセミナーの開催を延期することといたします。

また、第96回定時社員総会の開催につきましても、その開催時期や開催方法について検討させていただき、改めてご案内させていただきます。

何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます

謹白

一般社団法人 栃木県診療放射線技師会 中止または延期とした本会主催イベント一覧

本会では、国内において複数の新型コロナウイルス感染者が確認されている状況を鑑み、会員の安全を第一に考えた結果、以下のイベントの中止または延期を判断いたしました。

- | | | |
|------------|--------------------|------------|
| ● 2月23日（日） | 第15回学術研究発表会 | 中止 ⇒ Web開催 |
| ● 2月23日（日） | 令和元年度第3回卒後教育講座 | 中止 |
| ● 3月6日（金） | 令和元年度第2回第1地区卒後教育講座 | 中止 |
| ● 3月14日（土） | 第1回栃木Ai研究会学術集会 | 延期 ⇒ 開催日未定 |

以上

(令和2年4月1日 現在)

第13回業務拡大に伴う統一講習会 開催報告

- 開催日：令和2年1月18日（土）・19日（日）
- 場 所：獨協医科大学病院 教育医療棟7階 シミュレーション講義室Ⅱ他
- 受講者：46名

栃木県開催は今回にて最後になりました。そのためか非会員16名、他県会員6名の参加者がいました。

栃木県診療放射線技師会の会員受講率は、78.8%となり全国的に上位の受講率を示しています。これも会員の方の自己意識が高くなってきたためだと思います。

今回も前回と同様に、DVDの講義と実習にて開催されました。業務拡大に伴う統一講習会の趣旨は診療放射線技師法が2014年6月18日に一部改正されたことです。CT・MR検査の自動注入器による造影剤の注入と注入後の抜針や止血、下部消化管検査のネラトンチューブ挿入、画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのチューブ挿入などの業務拡

大がなされました。この業務を行うために医療の安全を確保することが求められていて、このために必要な知識、技能を習得することが目的であり、講習会は強制されるものではないですが診療放射線技師の法令改正によるところで受けていただきたいと思っています。

参加者の皆さんは、朝早くから集まり遅い時間までDVDの講習を受けなければならず、つらいところと思いますが頑張ってくださいました。実習では班ごとに静脈注射の抜針、下部消化管検査、IGRT、一次救命処置法に至るまでをグループで慣れない手つきながら全員が実習を行いました。講師の方々ありがとうございます。明日から仕事に生かせるものは生かしていただきたいと思っています。



副会長 吉成亀蔵



第15回学術研究発表会 (Web開催) 開催報告

- 開催日：令和2年3月9日から3月31日
- 閲覧方法：公式HP 会員専用ページ内特設ページ

令和2年2月23日に第15回学術研究発表会の通常開催の予定でしたが、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響を受け、通常の形式での開催を断念し、初めてWeb開催という形式で行われました。

急遽変更でありながら、9名の発表者にWeb形式での発表にご賛同いただき、無事開催できたことをお礼申し上げます。総閲覧件数は77件となりました。

学術奨励賞は「経皮的冠動脈インターベンションにおける昨今の透視・撮影線量の評価」那須赤十字病院の山下涼香会員でした。

開催が困難とも言える状況にありながら、会員各位のご協力を賜り、関係者一同深謝しております。

学術部 大橋 俊之

学術奨励賞を受賞して

那須赤十字病院 山下 涼香



この度は、学術奨励賞という大きな賞をいただき、誠にありがとうございます。このような栄誉は自分には縁遠いと思っておりましたので、畏れ多く感じております。

今回の研究に関して多くのアドバイスをくださいました、共同演者の増淵さんをはじめ、職場のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

今、世界では新型コロナウイルスが猛威を振るっており、その影響で今回の学術研究発表会もWeb開催という異例の事態となりました。皆様には拙いスライドでしか研究成果をお示しすることができず、伝わりにくいところも多々あったと思いますが、そんな中でこのように評価していただきまして、大変嬉しく思っております。

今回の私の研究は、最近のIVR装置において、冠動脈IVRでの透視と撮影の割合の傾向を明らかにし、患者被ばく線量のさらなる低減の可能性を示唆するものです。皆様の施設において患者被ばく線量低減の一助となれば幸いです。もちろん、私自身の今後の研究や実務にも活かしていく所存です。

最後に、学術奨励賞をいただいたこと、そしてここにお礼を言う機会をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。

令和元年度 第2回 第2地区 卒後教育講座

- 開催日：令和2年1月25日（土）
- 参加人数：23名
- 会場：獨協医科大学病院 教育医療棟6階 シミュレーション講義室
- 内容：テーマ 「最先端医療の情報を知ろう！」

会長挨拶

栃木県診療放射線技師会会長 小黒 清

【メーカー発表】 メーカー発表1

医療法改正と線量管理について

富士フイルムメディカル(株) ITソリューション事業部 開発部商品企画グループ

五十嵐昭人 先生

メーカー発表2

- RSNA2019 第105回北米放射線学会報告1 シーメンスヘルスケア(株) MR事業部 大澤勇一 先生
- RSNA2019 第105回北米放射線学会報告2 GEヘルスケア・ジャパン(株)
MRモダリティーセールススペシャリスト 丸山功男 先生
- RSNA2019 第105回北米放射線学会報告3 キヤノンメディカルシステムズ(株) 関東支社
営業推進部 MRI担当 河野純子 先生
- RSNA2019 第105回北米放射線学会報告4 (株)フィリップス・ジャパン プレシジョンダイアグノシス事業部
CTモダリティスペシャリスト 草山祐介 先生



令和2年は中国武漢の新型コロナウイルスの発表から幕を開けることとなりました。パンデミックといった大規模拡大が心配される中、第2回第2地区卒後教育講座の開催となりました。

まず、小黒会長より業務拡大に伴う統一講習会(栃木県内全13回開催)が終了したとの報告がありました。

これまで県内100%の受講を目指すべく活動してきたわけですが、最終的に78.8%の受講率ということでした。未受講の方々も随時参加できるよう講習会の継続をお願いしたいと思います。

メーカー発表1では、今年4月から始まる医療法改正と線量管理について富士フイルムメディカル(株)より発表がありました。

県内各施設で指針策定などご苦労されていることと思いますが、そのポイントを被ばく線量管理システム



「DOSE MANAGER」を例に分かりやすく説明していただきました。検査オーダーを出す医師や放射線検査に関わる職員にも、医療法改正について理解していただくことが課題となります。



メーカー発表2では、昨年末に終了したRSNA2019の最新情報を4社の方々に発表していただきました。

学会報告1はシーメンスヘルスケア(株)から情報提供。

MRに関するものでしたが、検査数を上げるためには装置の高速化が不可欠、そして、定量化を進めるための方策も必要。そこで「MR Finger printing」(MRF)という技術についての説明がありました。1スキャンでT1値、T2値などの定量値の取得、データベース上の信号変動パターンと撮像された

信号変動パターンの照合が可能となる技術が実装された装置が、薬事承認後に登場するとのこと。指紋認証みたいでとても印象に残る発表でした。



学会報告2はGEヘルスケア・ジャパン(株)からの情報提供。AIR Technologyについての発表でした。

まずは、AIR Coils。私も横浜で毎年開催されるITEMで目にしましたが、ブランケットのよう

に体に密着させることができるのは患者さんにも優しく、さらに画質向上につながると思いました。

「AIR Touch」は、コイル、プロトコルなどの自動選択により効率アップが期待できます。

「AIR Image Quality」は、新しい画像再構成アルゴリズムによりS/N比向上につながりそうです。



学会発表3はキヤノンメディカルシステムズ(株)からのMRIに関する情報提供。

CTの分野でお馴染み、Deep Learningによるデノイズ技術「AiCE」。

MRIにおけるAiCEの効果としては、短時間で高画質な画像を得られることです。

撮像時間を短縮してもAiCEによりノイズ低減できれば検査時間短縮につながると思っています。

また、AiCEがあれば、高分解能撮像と高SNR画像の両立が可能であり、今後、臨床現場におけるAiCEの更なる効果に期待しています。



学会報告4は(株)フィリップス・ジャパンからの情報提供。

スペクトラルCTは造影CT検査で威力を発揮します。腎機能の悪い患者さんでは少量の造影剤しか使用できないので、仮想単色X線画像撮影は有効です。

コントラストを自在に変えたり、ヨードマップ画像、実

行原子番号画像なども得られるので、結石などの組成マップ作成も可能。新製品Incisive CTが提供する「10年保障管球」などは嬉しい情報でした。

MR装置の発表では、新開発のBlue Sealマグネットを採用した1.5TMRI装置の発売を開始し、国内で運用が始まっております。

7リットルの液体ヘリウム(本体内蔵)で超伝導を維持できる装置なのでヘリウム充填の必要がないのが特徴。



各メーカーの情報提供について会場から多くの質問があり、医療法改正、線量管理、RSNA2019についての関心の高さが伺われました。

これらの質問に対して各メーカーから回答をいただきましたが、薬事未承認の技術、装置に関する発表が多く、今後の詳しい回答を待ちたいと思います。



今回の学会報告は長年願っていたような技術や装置についての発表が多々あり、私を含め他の参加者も新技術に興味津々でした。

一方、法改正に伴う線量管理、研修といった内容は技師の中で意欲に温度差を感じました。

来年度は、今回の企画から外れたAi(Autopsy imaging)、放射線治療、施設見学など会員が参加しなくなるようなテーマを企画し、活気溢れる卒後講座になるよう努力したいと思います。

第2地区幹事 江 連 真 一

令和元年度 第2回 第3地区 卒後教育講座

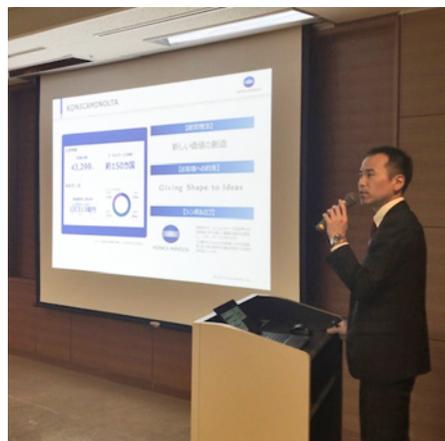
- 開催日時：令和2年2月7日（金） 18：30～19：30
- 場 所：済生会宇都宮病院 グリーンホール
- 参加人数：25名（会員25名）

令和元年度第2回第3地区卒後教育講座を、済生会宇都宮病院グリーンホールにて開催しました。参加者は会員25名でした。

内容はコニカミノルタジャパン株式会社ヘルスケアカンパニー北関東支店の窪谷大樹先生より「単純X線撮影で実現する胸部動態解析技術～コニカミノルタ最新技術紹介～」についてご講演をいただきました。この技術は、パルスX線を1秒間に約15回連続照射し、コマ撮りした画像を連続表示することで動画を作成することができる技術です。実際の動きを観察できる胸部X線動画からは、静止画に比べて非常に多くの情報を得ることができ、この動態画像から横隔膜の動きを数値化するなど定量化が可能で、慢性閉塞性肺疾患の診断への適応が期待されます。また、肺組織の動きによる信号値の変化を可視化することから肺疾患における機能評価にも有用な情報がもたらされると考えられます。これにより、

CTやMRIなどの高度な診断装置を使用する前のスクリーニング段階における単純X線検査でも、一定の機能評価のための情報収集に寄与することが期待されます。また、CTやMRIが寝た状態で撮影するのに対して、体を起こした立位で撮影できるため、日常生活における体勢に近い状態を観察できるというメリットもあります。さらに、この技術は整形領域において関節の動きの過程を把握できるなど、予約不要でかつ記録性もあるため画像確認をいつでも行えることから、今後様々な領域においても活用が期待されると思われます。

講演では手術前・手術直後・フォローなどの経時的变化の実例を多数紹介していただきとても分かりやすく、素晴らしい技術であることが分かりました。参加者からは多くの質問や活発な意見交換があり、会終了後も動画を再度参照するなど大変有意義な卒後教育講座となりました。



令和元年度 第2回 第4地区 卒後教育講座

- 開催日時：令和2年1月29日（木） 18：30～20：00
- 場 所：一般財団法人佐野メディカルセンター 佐野市民病院 5F 研修室
- 参加人数：26名（会員26名）
- 内 容：「被ばく線量管理の動向と『DoseXross』のご紹介」
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
営業本部 HIT営業部 参事 網代啓志 先生



令和元年度第2回第4地区卒後教育講座を佐野市民病院5F研修室にて開催しました。26名の参加で、今回のテーマは、「被ばく線量管理の動向と『DoseXross』のご紹介」と題してキヤノンメディカルシステムズ株式会社の網代啓志先生にご講演をいただきました。線量管理システムの紹介、今、最も注目している今年4月の医療法改正に伴う最新の情報、現行の医療法、また4月からの新たな変更点、注意すべき事項などわかりやすく説明していただきました。参加者からは活発な質問もあり大変有意義な講座となったこと、多くの方のご参加とご協力に感謝申し上げます。



第4地区副理事 大隅久人

令和元年度 第2回 第5地区 卒後教育講座

- 開催日時：令和2年2月14日（金） 18：45～20：45
- 場 所：とちぎメディカルセンターしもつが 2階 講堂
- 参加人数：35名（会員35名）

令和2年2月14日（金）、第2回第5地区卒後教育講座が開催された。

内容は「第5地区におけるCT検査の現状」として自治医科大学附属病院、新小山市民病院、石橋総合病院、とちぎメディカルセンターしもつがの4施設より発表があった。

それぞれの施設でのCT検査の件数や推移、撮影方法、造影剤の使い分け、3D画像の作成方法など多岐にわたる話を聞くことができた。

自施設と他施設との撮影方法の違いは、多かれ少なかれ誰もが気にしていることではないかと思う。

今回のように他施設の現状を聞くことは、自施設の現状の再確認とともにお互いに良い刺激となり、地区全体のスキルのレベルアップにつながるのではないかと感じた。

今後も第5地区において様々な情報の共有化が図れば良いと感じた。



会の動静

- 1/9 会誌111号(創立70周年記念誌)発行
- 1/11 第6回理事会(獨協医科大学病院)
- 1/18.19 第13回業務拡大に伴う統一講習会
(獨協医科大学病院)
- 1/23 栃木県医師会新年懇親パーティ
(小黒会長・金田副会長)
- 1/25 第2回第2地区卒後教育講座
(獨協医科大学病院)
- 1/29 第2回第4地区卒後教育講座
(佐野市民病院)
- 2/7 第2回第3地区卒後教育講座
(済生会宇都宮病院)
- 2/10 第15回学術研究発表会抄録集発行
- 2/14 第2回第5地区卒後教育講座
(とちぎメディカルセンターしもつが)
- 2/19 第5回業務執行理事会(獨協医科大学病院)
- 2/28 日本診療放射線技師会第7回理事会
(日本診療放射線技師会事務所) (小黒会長)
- 3/4 第2回栃木県がん対策推進協議会がん検診部会
(栃木県庁) (小黒会長)
- 3/31 会員数508名

会員の動静

令和2年4月15日現在(敬称略)

■ 会員総数 507名

- 第1地区 92名 第2地区 108名
- 第3地区 154名 第4地区 62名
- 第5地区 91名

■ 入会

- 柴田 航平 国際医療福祉大学塩谷病院
- 山口 丈晶 恵生会 黒須病院
- 椎名麻梨亜 佐野厚生総合病院
- 椎名 広晶 獨協医科大学病院
- 山崎 稜大 済生会宇都宮病院
- 松本 峻典 自治医科大学附属病院

■ 転入

- 小島 由希 平間病院 茨城県より
- 矢島有里恵 とちぎメディカルセンターしもつが
埼玉県より
- 山下 栄子 国際医療福祉大学 東京都より
- 茂木 俊一 国際医療福祉大学 群馬県より

■ 退会

- 大森 哲也 野村 利治 宇賀神 誠
- 松山 江里 唐沢 滋勝 五十嵐 剛
- 武藤 美子 山田 隆幸 赤羽根靖博
- 棚井 壱歩 神保 文晴 福田 嘉一

椎名 広晶 小林 桂 三吉 英秀
会費滞納による除籍者1名

■ 転出

松本 峻典 福島県へ

■ 異動

- 斎藤 仁嗣 福田記念病院 → 西方病院
- 名淵 彩 とちぎメディカルセンターしもつが
→ とちぎメディカルセンターとちのき
- 福田 敏幸 済生会宇都宮病院 → 自宅
- 椎名 佳奈 獨協医科大学病院
→ アクロバイオ株式会社
- 井上 泰成 済生会宇都宮病院 → 自宅
- 大村 力也 川上病院
→ 獨協医科大学日光医療センター
- 関口 里菜 足利赤十字病院 → 自宅
- 牧島 正道 栃木県立がんセンター
→ 安足健康福祉センター
- 菊池 将司 とちぎメディカルセンターしもつが
→ 芳賀赤十字病院

■ 変更

・氏名

- 石川 知里 → 平山 知里(済生会宇都宮病院)
- 佐久間由佳 → 大島 由佳(小金井中央病院)

・病院名

- 医療法人 栄仁会 川上病院
→ 社団医療法人 栄仁会 川上病院

■ ご結婚おめでとうございます

令和2年 2月22日 根本あかね(那須赤十字病院)

■ お悔やみ申し上げます

- 令和元年12月14日 ご母堂様 須田 富仁
(那須中央病院)
- 令和2年 1月16日 ご尊父様 春名克義・裕子
(自治医科大学附属病院)
- 令和2年 3月23日 ご母堂様 柳沢 三二郎
(自治医科大学附属病院)
- 令和2年 3月29日 ご尊父様 柳沢 三二郎
(自治医科大学附属病院)

■ 表彰

- 公衆衛生大会表彰
- ①令和元年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰
柳沢三二郎 自治医科大学附属病院
- ②各地区公衆衛生大会
・安足健康福祉センター所長表彰
市川 和秀 佐野厚生総合病院
長瀬 光臣 足利赤十字病院

ご案内

2020年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会

会 期：2020年6月27日(土)・28日(日)
会 場：Gメッセ群馬
(群馬県高崎市岩押町12番24号)
実 施：一般社団法人 群馬県診療放射線技師会
参加登録：大会ホームページより事前登録
(2020年5月31日まで)
[事前登録] 3,000円(会員) / 5,000円(非会員)
[当日登録] 4,000円(会員) / 6,000円(非会員)
* 日本放射線技術学会会員の参加費は5,000円
(当日のみ)
* 学生の参加費は1,000円(当日のみ)
* 情報交換会は事前申し込み6,000円
当日申し込み8,000円
* 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、延期・
中止が想定される状況となっております。詳
細はホームページをご参照ください。

ご案内

第36回 日本診療放射線技師学術大会

会 期：2020年10月23日(金)～25日(日)
会 場：仙台国際センター
(宮城県仙台市青葉区青葉山)
主 催：公益社団法人 日本診療放射線技師会
実 施：公益社団法人 宮城県放射線技師会
参加登録：
[事前登録] (2020年9月15日まで)
10,000円(正会員) / 15,000円(非会員)
[当日登録]
14,000円(正会員) / 18,000円(非会員)
(学生の参加登録は2,000円)
* 詳細はJART4月号またはホームページをご参照
ください。

ご報告

第72回 診療放射線技師国家試験 結果発表

令和2年2月20日(木)に実施されました第72回診療放射線技師国家試験の全国の結果は次のとおりです。
・ 受験者数：2,914人 ・ 合格者数：2,397人 ・ 合格 率：82.3%

編集後記

- お待たせしました！今号より情報誌「あすたーと」はPDFによるデジタル配信でお届けいたします。早速、カラーで提供できるメリットを活かし、表紙の写真は色鮮やかな芝ざくらをセレクトしてみました。
- 新年度を迎え心新たに…、と言いたいところですが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威が続いています。医療現場での診療体制もCOVID-19対策が中心になり、他の疾患で苦しむ患者様への影響も危惧されます。
- 県内最後となる「業務拡大に伴う統一講習会」が開催されました。栃木県は全国でもトップクラスの受講率ということで、とても素晴らしいことだと思います。なお、今後も様々な業務拡大が検討されていますので、また新たな統一講習会も企画されることでしょう。
- 大学ではすべてオンラインで授業が行われています。そのため、これまでのような実験や学内実習ができない状況です。命と健康を守るための措置として仕方ありませんが、国家試験に挑む4年生にとっても、厳しい1年になりそうです。

【編集責任者】 樋口清孝

一般社団法人栃木県診療放射線技師会

あすたーと

2020
Apr.

Vol. 47

編集・発行

発行人 小 黒 清

一般社団法人 栃木県診療放射線技師会
〒320-0032 宇都宮市昭和1丁目3番10号
栃木県庁舎西別館404号

TEL・FAX 028-625-7979

銀行振込:足利銀行本店 (普通)1785921

郵便振替:00340-3-35730

URL <http://www.tartnet.com/> E-mail tart@ce.mbn.or.jp